

特集にあたって

青木 利晴 (日本オペレーションズ・リサーチ学会会長)
(株)NTT データ 相談役

1957 (昭和 32) 年 6 月に創立された日本オペレーションズ・リサーチ (OR) 学会は、2007 年夏に創立 50 周年という大きな節目を迎えます。本学会は、これまでの間、さまざまな領域における問題解決手法や具体的方策を提案し、さらにそれらが産業界はもちろん、社会全般の重要問題にも広く応用・実施されるよう不断の努力を傾注して参りました。こうした広範な OR の研究と実践の諸活動を通じて、本学会は、この半世紀における日本の学術、産業、社会の発展に大きな貢献をなしたと自負しております。これもひとえに会員の皆様方のご努力と、当会設立以来築かれて参りました会員相互の強い結束の賜物であり、深く感謝申し上げます。

本学会設立の経緯については近藤次郎先生、伊理正夫先生の対談で詳しく触れられておりますが、設立 1 年目にして、すでに 700 名を越す会員を擁した学会でありました。その後、順調に成長を続けて参りましたが、会員数では 1997 (平成 9) 年の 3,100 名余を頂点に、最近 10 年間は残念ながら減少傾向にあります。これは関連する研究分野の広がりもあって新しい学会が設立されるなど、所属学会が細分化されたことも原因の一つかもしれませんが、本学会としても会員増強についてはこれまで以上に発奮していかなければならないことと考えております。

しかし、学会の研究活動としては、例えば「オペレーションズ・リサーチ」誌 Vol. 50, No. 11 の「特集研究発表会から見た OR 研究動向」の三浦英俊氏の分析でも分かるように、この 10 年間の研究発表件数は決して減少に転じているわけではなく、むしろセッション数は増加傾向にあります。このことは OR の研究分野が自然科学・社会科学の両面において普遍的であるのと同時に、新たな研究対象分野が出現していることを示しています。実際、古くは確かに OR は理論研究が中心でしたが、近年ではファイナンスや経営システムといった応用・事例研究が多く行われています。

これまで発表されてきた論文や研究発表会に関する

言及は上記機関誌をはじめ他に譲り、本学会にとってコア分野の研究を行っている、研究部会の変遷から学会の研究分野についてたどりたいたいと思います。もっとも古い資料では、1965 (昭和 40) 年の総会資料に設備投資問題に関する研究会準備委員会についての報告があります。その後 1968 (昭和 43) 年に研究専門委員会が設立され、スケジューリングに関する部会などいくつかが発足しました。研究部会が本格的に始動したのは 1969 (昭和 44) 年で、数理計画や待ち行列、信頼性といった OR のコア技術をはじめ、10 研究部会が活動を開始しています。この時期は、応用分野としては電力や MIS に関する研究部会がありました。1976 (昭和 51) 年には消費者行動モデル研究部会が設立され、OR におけるマーケティング研究の先駆けになっております。1978 (昭和 53) 年にはゲーム理論に関する研究部会もスタートしました。現在、OR にとって重要な応用分野であるファイナンスについては 1988 (昭和 63) 年に最初の研究部会が設立されました。DEA などを研究対象とした評価の OR 研究部会は 1995 (平成 7) 年から活動しています。

OR にとって普遍的な研究については常設部会として継続した研究部会で活動していますが、常設部会は 1983 (昭和 58) 年より設立され、数理計画と待ち行列が最初の常設部会になっております。現在ではこれらに加え全部で 6 つの常設研究部会を数えております。研究部会の数は、各年変動はあるものの、おおよそ 20 前後の研究部会が活動しており、OR に関する研究分野の懐の深さと広さを知ることができます。

「知の世紀」といわれる 21 世紀に突入した今、新たな時代環境の中で本学会も大きな変化を求められています。本学会は、これまでに築いてきた基盤の上に立って、今後とも発展し続けるように、新たな OR 活用分野・研究手法の開拓、広報・研究普及活動の更なる拡充による社会への貢献・公的地位の確立、国際化の推進とアジア地域との連携などの課題について重点的に取り組み、真に役立つ OR の研究・実践と会員満足

度の更なる向上に努力を積み重ねて参る所存でございます。これらの観点から、センテニアルに向けた新たな半世紀に大きな一歩を踏み出す創立 50 周年を機に、『OR の新展開—さらなる変革と融合と発展を目指して—』をテーマとして、記念事業を推進し、その一貫として「OR 誌 50 周年記念特集号」を 6 月号につづき、9 月号と 12 月号に企画いたしました。本号では

その第一弾として、過去に会長を歴任いただいた先生方にメッセージをお願いいたしました。近藤次郎先生と伊理正夫先生の対談をはじめ、森村英典先生、岡久雄先生、刀根薫先生、長谷川利治先生、今野浩先生からご寄稿いただき、会員の皆様とともに、本会の過去の足跡をふり返ると同時に、将来のさらなる発展の指針を探る機会にしたいと思います。